

称号及び氏名 博士(看護学) 相原 ひろみ

学位授与の日付 平成31年3月31日

論文名 看護大学生の看護実践における倫理的行動と関連要因の検討

論文審査委員 主査 細田 泰子  
副査 檜木野 裕美  
副査 志田 京子

## 論文内容の要旨

**【目的】** 看護大学生の看護実践における倫理的行動について質的に検討し、看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度を開発し、倫理的行動と関連要因について明らかにする。

**【概念枠組み】** 概念枠組みは文献的考察に基づき構築した。日常生活経験が道徳的感受性に影響を及ぼし、道徳的感受性は倫理的行動に影響を及ぼすという概念枠組みを構築した。

### **【予備研究1】 看護大学生の看護実践における倫理的行動に関する内容の抽出**

**方法：** 4年次の学生10名、実習指導者9名、看護系大学教員7名を対象として、看護大学生の看護実践における倫理的行動について、半構成的面接法を用いてデータを収集し（2016年6月～11月）、質的帰納的に分析した。

**結果：** 267のコードから53のサブカテゴリー、15カテゴリー、5コアカテゴリー【尊重に基づく相互関係の構築】【患者の権利の擁護】【看護実践の責任ある遂行】【チームでの協働による看護実践の向上】【責任を自覚した学習姿勢】が抽出された。

### **【予備研究2】 看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度の表面妥当性・内容妥当性の検討**

**方法：** 学生実習の指導経験がある看護師2名、哲学または倫理学の研究者2名、看護教員2名の計6名を対象にグループインタビューを実施し、予備研究1で抽出されたサブカテゴリーをもとに尺度項目の表面妥当性と内容妥当性を検討した（2017年3月）。

**結果：** 各概念と質問項目の内容の妥当性、整合性、順序性、表現の明確性、回答のしやすさについて検討し、修正・精選を行い、尺度項目は53項目から55項目となった。

### 【本研究 1】看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度の内容妥当性の検討

**方法**：看護師として 5 年以上の臨床経験と学生の指導経験と修士以上の学位を持つ看護師または看護教員 10 名を対象に、看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度の内容妥当性を検討する質問紙調査を実施し（2017 年 6 月～9 月）、内容妥当性指数（item-level content validity index: I-CVI）を算出した。

**結果**：I-CVI が 0.78 以下を示した 6 項目は削除し、49 項目を看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度項目として採用した。

### 【本研究 2】看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度の信頼性・妥当性の検討

**方法**：便宜的に抽出した看護系大学 15 校に在籍する 4 年次の学生 1,361 名を対象に、①看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度（案）49 項目、②看護学生の臨地実習自己効力感尺度、③向社会的行動尺度（大学生版）、④個人属性からなる質問紙調査を実施した（2017 年 9 月～2018 年 1 月）。尺度の信頼性は内的一貫性（Cronbach's  $\alpha$  係数）と安定性（再テスト法）にて、妥当性は構成概念妥当性（探索的因子分析、確認的因子分析）、基準関連妥当性（臨地実習自己効力感尺度、向社会的行動尺度との相関）を用いた。

**結果**：319 名（回収率 23.4%）から回収し、302 名（有効回答率 22.2%）を分析対象とした。項目分析、探索的因子分析により、看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度は【個別性を捉えた尊厳あるケアの模索と提供】【患者の人権の尊重】【協働による責任ある遂行】【自律的学習姿勢】の 4 因子 19 項目が抽出された。Cronbach's  $\alpha$  係数は 0.825～0.886 であった。確認的因子分析の結果、適合度指数は許容範囲内であった。基準関連妥当性は、学生の臨地実習自己効力感尺度との相関は  $\rho=0.602$ 、向社会的行動尺度との相関は  $\rho=0.186$  を示した。再テスト法による下位尺度の相関は、 $r=0.503\sim0.709$  であった。

### 【本研究 3】看護大学生の看護実践における倫理的行動と関連要因の検討

**方法**：看護系大学 15 校に在籍する 4 年次の学生 1,341 名を対象（本研究 2 とは重複しない）とし、①本研究 2 で開発した看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度、②道徳的感受性尺度、③日常生活経験、④個人背景からなる質問紙調査を実施した（2018 年 6 月～10 月）。

**結果**：247 名（回収率 18.4%）から回収し、230 名（有効回答率 17.1%）を分析対象とした。概念枠組みに基づき、日常生活経験が道徳的感受性に影響を及ぼし、道徳的感受性が倫理的行動に影響を及ぼすという共分散構造モデルを構成し分析を行った。結果、モデルの適合度は GFI=0.963、AGFI=0.927、CFI=0.959、RMSEA=0.069 であった。[日常生活経験] から [道徳的感受性] へのパス係数は 0.62、決定係数は 0.38、[道徳的感受性] から [倫理的行動] へのパス係数は 0.61、決定係数は 0.38 であった。重回帰分析の結果、道徳的感受性に関係する要因として、「学習経験」（ $\beta=0.172$ ,  $p<0.05$ ）、「倫理的場面の経験」（ $\beta=0.153$ ,  $p<0.05$ ）が有意に関係していた（調整済み  $R^2=0.115$ ）。

**【倫理的配慮】** すべての研究は、研究倫理審査委員会の承認を受けて行った。

**【考察】** 看護大学生の看護実践における倫理的行動について、質的に検討した結果から妥当な尺度案が見いだされたと考えられる。開発した看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度は信頼性・妥当性を確保しているものと考えられる。看護大学生の看護実践における倫理的行動は、日常生活経験と道徳的感受性に影響を受けていることが確認された。教育的関わりによって、学生の日常生活経験を重視し、道徳的感受性の醸成がなされることによって、倫理的行動につながると考える。

キーワード：看護大学生、倫理的行動、看護実践、尺度開発

Key words: baccalaureate nursing student, ethical behavior, nursing practice, scale development

## 学位論文審査結果の要旨

本研究は、看護大学生の看護実践における倫理的行動について質的に検討し、それをもとに倫理的行動評価尺度を開発し、倫理的行動と関連要因について検討することを目的としている。学生は初学者として、自らの看護実践を倫理的側面から振り返り、倫理的課題の解決に向けて取り組む必要性は高く、看護基礎教育のなかで倫理的行動を学ぶことが求められている。本研究は、学生の倫理的行動を評価する尺度が必要であるが見当たらないため、学生が自己の倫理的行動を具体的かつ客観的に把握することが可能となる尺度を開発し、日常生活経験と道徳的感受性が倫理的行動に及ぼす影響を検討した独創性が高い研究である。

看護大学生の看護実践における倫理的行動評価尺度の開発では、学生、実習指導者、看護系大学教員を対象とした半構成的面接による質的帰納的分析の結果から尺度項目を作成し、哲学または倫理学の研究者を含めた専門家会議および看護師として5年以上の臨床経験と学生の指導経験を有し修士以上の学位をもつ10名を対象に内容妥当性指数の算出を行い、尺度項目の表面妥当性と内容妥当性を検討した。看護系大学15校の学生を対象に質問紙調査を実施し、有効回答が得られた302名を対象に項目分析、探索的因子分析と確認的因子分析を行った結果、【個別性を捉えた尊厳あるケアの模索と提供】【患者の人権の尊重】【協働による責任ある遂行】【自律的学習姿勢】の4因子19項目から構成され、構成概念妥当性、基準関連妥当性、内的一貫性と安定性による信頼性を有する尺度であることが確認された。本尺度は尺度開発のプロセスに沿って開発したもので、看護大学生の看護実践における倫理的行動をアセスメントすることが可能な測定用具である。さらに、看護大学生の看護実践における倫理的行動と関連要因を検討するため、看護系大学15校の学生を対象に質問紙調査を行い、有効回答が得られた230名を対象とし、本研究の概念枠組みに基づく共分散構造分析を行った。その結果、学生の看護実践における倫理的行動は、日常生活経験と道徳的感受性に影響を受けていることが確認された。本研究は、看護倫理教育の進展に資する新たな知見を提供し、看護学の発展に寄与するものであると考える。

以上のことから、本研究は博士論文としての学術的価値を有しており、博士（看護学）の学位の授与に値するものと判断した。